

屋久島、永田、田舎浜におけるウミガメの産卵生態調査

屋久島ウメガメ研究会

大牟田 一 美

屋久島ウメガメ研究会は1985年4月地元の永田・一湊地区の青年達によって発足しました。全国的に自然状態の砂浜が少なくなっていく現実の中、屋久島もその例にもれず自然の砂浜がなくなってきました。

永田地区は屋久島の北西部に位置し、昔からウミガメの上陸地として有名でした。産卵場としては、村の前に永田川をはさんで位置する前浜と、いなか浜、四瀬浜があります。前浜は長さ約1kmでその半分は直立型防波堤がある半自然状態の砂浜です。田舎浜は長さ800m程で唯一屋久島では自然状態の砂浜です。四瀬浜は200m程で浜の真中に意味のない堤防が作られています。

どの浜も砂の量が著しく減少し、危機に瀕しています。私達はどうかして田舎浜を自然のままに残すことはできないものかと考えました。屋久島には4月末から8月初めにかけて、ウミガメが産卵のために浜に上陸してきます。ウミガメの数も日本では上位と思われ、その生態も未知の部分が多くあります。またウミガメは世界的に産卵場の減少や乱獲等によってその数は著しく少なくなり、問題になっています。私達はウミガメの生態を調査研究することにより、自然状態の田舎浜を守っていかねばと行動を開始しました。また、ウミガメと地元住民との共存の両立も目指しました。

調査方法は次のとおりです。4月・8月を除き、5月～7月は毎夜浜に出てできる限りの時間、ウミガメの生態調査を行なっています。また、調査項目は次のとおりです。

- 上陸産卵頭数調査：毎日の上陸頭数と産卵頭数調査
- 月齢と時刻別上陸頭数調査：ウミガメの上陸する時間と月齢の関係
- 甲長と産卵数調査：甲長と産卵数の関係
- 各作業所用時間調査：上陸してから帰海するまでの各作業の所用時間調査
- 浜の地区別上陸産卵頭数調査：田舎浜を4区分し、各地区の上陸頭数調査
- 潮の干満による上陸頭数調査：ウミガメの上陸と潮との関係
- もどりの調査：産卵できずにもどったウミガメの原因調査

● 標識調査：上陸したウミガメの個体選別と数または回遊調査

以上の調査をベースとし、他の調査は年によって加えたりしています。また、卵はできる限り自然状態でふ化させることとし、やむをえない場合のみ移動しました。調査期間中は浜の清掃や観察者のマナー等について指導しています。また、調査結果をまとめ、報告書として各関係者および報道関係者に年一回発表し、ウミガメ並びに浜の保護を啓蒙しています。

屋久島は日本一のウミガメの上陸地であると言われていましたが、調査研究してはっきりと日本一であることがわかりました。

ウミガメの上陸地は他に、鹿児島県の吹上浜、宮崎県一ツ葉海岸、和歌山県南部町、静岡県御前崎等があげられます。しかし、屋久島はどの上陸地よりも上陸密度が濃く、また上陸頭数も群を抜いています。

鹿児島県では1988年6月1日よりウミガメ保護条例が施行されました。この条例は県内に上陸するウミガメに対し、無断でこれを捕獲（殺傷も含む）、また卵の採取をしたものに罰則があります。条例の施行にあたり研究会の今までの資料等が大いに役立ちました。

1990年、日本ウミガメ協議会が設立され、第一回会議は鹿児島、今年の第二回会議は宮崎で開催されました。この会を通し、屋久島は日本のウミガメを保護するのにかかせない場所であることがわかり、また、ウミガメに装着した標識も他の地域よりも群を抜いて多く、ウミガメの回遊等の解明についても期待ができそうです。将来はウミガメの保護啓蒙並びに調査、環境保護を目的としたウミガメのビジターセンター設立を望んでいます。

研究会が発足して7年目。会員は島内から島外へ移ってきました。5月から7月の3カ月間、毎夜遅くまで調査活動をしてきた会員は仕事の関係等でやむなく会を続けることができなくなったりしてきました。その度島内で会員を募ってきましたが、思うように集まってこないのが現実です。研究調査は学術的にも注目されるようになってきましたが、会員が少ないということが悩みでした。しかし、島外からボランティアを募集することを3年前から始め、多くの方々が調査に参加しています。

良いことばかりではありません。田舎浜は県道沿いにあるため、いつでも、どこからでも浜に入ることができ、ウミガメの上陸で有名になればなるだけ見学者が多くなり、ウミガメに対する悪い影響がでてきました。（ウミガメは夜上陸するため、見学者が電灯で浜を照らしたり、騒いだりするともどってしまいます）また、旅行会社が勝手にツアーなど

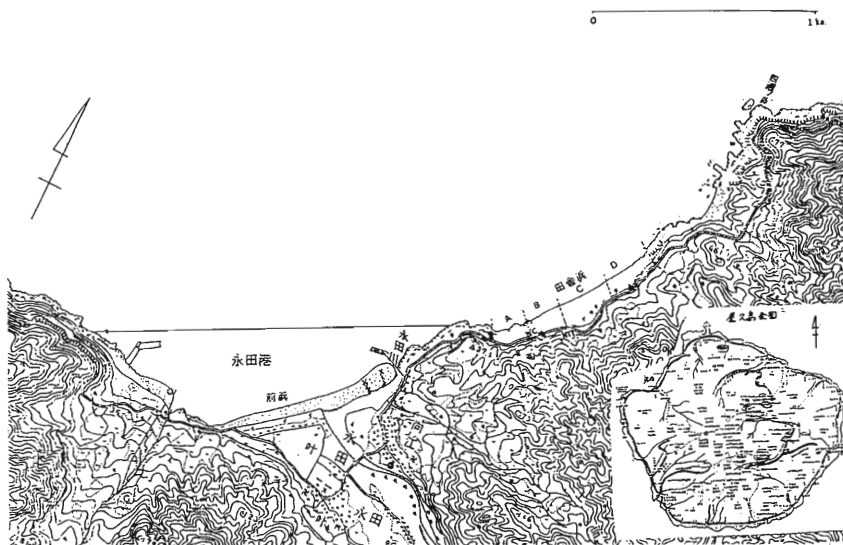
の中にウミガメ観察を組み入れて団体で訪れるようになってきました。見学者とのトラブルは毎年あり、ウミガメの観察については今の所私達だけでは全体を押えることができなくなり、行政指導が必要となってきました。また、テレビ等の報道関係者もよく訪れるようになり、ウミガメに対する影響もでてきました。このことは私達研究会の責任もあります。

環境保護としては毎年、ハマユウの種子を播いています(7年間続けています)。しかし全体として、浜の砂は少なくなり、今年の7月28日通過の台風で田舎浜の砂は大被害を受け、卵やふ化し始めている子ガメなど約8万個程が打撃を受けました。これは浜の歴史が始まって以来のことと思われます。浜の砂の大切さは村の人々にはわかってきているようですが、現在は砂の補強がなく、年々砂は減る一方です。また、松食い虫で松が枯れこのままだと1~2年で浜の松は全滅する恐れがあり、松の苗を植えましたが、今の所焼け石に水の状態です。

田舎浜は砂浜の半分近くまでが個人の所有地であるため、将来このことも大きな障害となることが予想されます。

会の発足7年を過ぎ、島内・島外的にも会の存在は認められるようになりましたが、課題は山積されています。

調査地区図





田舎浜（日本一のウミガメ上陸地）



ウミガメ個体調査
甲長を測っているところ（突然昼間上陸したウミガメ）



浜の入口にウミガメ観察等について説明する看板をたてた。

うみがめ通信

No. 1
屋久島ウミガメ研究会
1991.6.10 発行

新緑の美しい5月。そして、ウミガメ連の上陸する季節になりました。昨年は今までない上陸・産卵を記録しましたが、さて、今年は一体どうなるのでしょうか。
今年、初めての上陸が確認されたのが4月28日でした。昨年よりも9日遅い上陸です。4月は合計3頭の上陸・1頭の産卵が確認されました。

5月の上陸・産卵状況

| 上陸頭数 | 産卵頭数 | 確認産卵数 | 確認産卵頭数 | 産卵率 |
|------|------|------------|--------|-------|
| 258 | 186 | 12254 (46) | 109 | 72.1% |

確認産卵数の()は奇形卵

昨年と比べると、上陸頭数が48頭、産卵頭数が29頭の増となりました。しかし、産卵率は2.2%の減少となりました。

一晩で最も多く上陸が確認されたのが5月28日の18頭(5月平均8.3頭)、最も多く産卵したのが171個(5月の平均は112.4個)でした。



2年ぶりの出会い

5月15日、台風4号の影響で波が高かったにもかかわらず、珍しい方に2年ぶりに出会いました。午後9時15分でした。右の足が悪いにもかかわらず田舎員にわざわざ来て下さいました。その方は...

「アオウミガメ」です。普通田舎員に上陸してくるカメは「アカウミガメ」。アオウミガメは、1989年の6月17日に上陸が確認された後、昨年は残念ながら確認されませんでした。5月15日・17日上陸し、足が悪いため穴掘りがうまくできず、20日に穴掘りを手伝ってやり、やっと108個の卵を産卵することができました。午後9時31分上陸、午前0時47分に麻事海に帰って行きました。産卵時間29分。甲長109cm、甲巾104cm、右下の甲羅と足がかけていました。

5/15 (正確には今頃は5/16の2時である)

私はとうとう見てしまった。そう、あの幻の(というほどではないだろうけど...)アオウミガメ。一言、デカイ。ざっと見算っても1m50cmはあるんだろーか。何だか甲だけ鈍めと、巨大なスイカの種のようなのである。あるいは、突然変異のゲンゴロウのようでもある。体もデカイや、排泄口もデカイ。特大のソフトクリームのようなのである。後ろ足も山小屋で便所を使う時に使うスコップのようにデカイ。色はひたすらに黒い。テカテカしている。アカウミガメの茶色の背中だけ見慣れた目には、至極不気味に映る。足跡も妙である。戦車のキックピラの跡のようである。当然、幅はアカウミガメの比ではない。C地区の真ん中辺りで足跡を発見し、追跡して行って見つけた時には、一瞬背筋が冷たくなった。何だか見てはいけないものを見てしまったような気がした。でもでも、この仕事の手伝いを初めて一通関目にして「アオ」と出会えるなんて、やっぱりこの上もなく Lucky であった。
～5/15 ウミガメ観察日記より～

今年から本調査を2回つけています

今までは、チタン性の標識を左前肢の中段に1個つけていましたが、今年からプラスチックの標識を右側に、インコ色の標識を左側に付けることにしました。2個つけるようになったのは、金属性の標識とプラスチック性の標識のどちらが耐久性に優れているのかを調べるためです。標識の裏には、プラスチックの標識には「串本海中公園 KUSHIMOTO MARIN PARK JAPAN」、金属性の標識には「KUSHIMOTO MARIN PARK WAKAYAMA JAPAN」と書いてあります。

Fig. No. 31019 (41412)



今年も全国各地から調査を手伝いに来ています

今年も屋久島に来ました川崎公夫です。毎日、海をみて、雲を見て、カメを観ています。みているだけでは物足りないので、海・山・川・滝などに触っています。彼は、それで満足なんです。でもそれが不必要と思う人が多いのか、目に見えて言う立場が機会が減ってきているので、少しは役に立つかなと思いがら浜を歩いています。本当はただ島が好きなんだけなだけ。

屋久島ウミガメ研究会 991-41鹿児島県熊毛郡上屋久町永田1161 事務局 大牟田 一美 TEL 09974-5-2657 FAX 09974-5-2260

☆平本 雅人

福島県いわき市出身 1987. 4. 30生まれ O型
東京の地帯でソフトウェア関係の仕事に就くも、思う所あって職を辞し、アパートを引き払い、目的地を持たぬ一人旅に出たのが4月の中旬。何の因果か偶然か、目に見えない運命の太いロープにたぐり寄せられるようにしてたどり着いたのは南海の神秘と幻想(とウミガメの)島、ここは屋久島。縁あって(と言うより殆ど強引に)「リグ・グリーン」の船客でもある、かのブラッドグッド氏のお宅にしばらく御厄介になった後、氏の紹介により、こちらカメラ研の活動に加えて頂くことになった次第。村上春樹と今井美樹とビートルとタバコとコーヒートとメタ・フィジカルをこよなく愛する自称「哲学しない哲学者」。
カメラ研の話を初めて耳にした時、持ち前のロマンチズム(ミーハー心)をいたく刺激され喜び勇んでいなか浜にやって来た私でしたが、いざ始めたらさあ大変。毎晩毎晩愛しのウミガメちゃん連のお尻を覗かせて、ここだここだと走り回り、元来不器用な私はでんてこまいの毎日で。時には気分が萎えてしまいそうになることもありますが、ウミガメちゃん連への同情・共感を胸に、自分を鼓舞しつつ今日も浜を駆けずり回る私です。

☆6/2 空も海も森も、ありのままそこにあります。特別なものなどなく、ただそこにあります。
僕は今恐怖に似た気持ちを持って空を海を森を見つめています。あまりに深くあまりに大きく、遠方に暮れます。
鳥はどこか悲しく見えます。そして、悲しいもの全てがそうであるとは限らないけれど、やっぱり鳥は美しい生き物でした。
この島へ来て一週間。星空をながめ、酒を飲み、「ああ、来てよかったんだなあ」としみじみ思うのです。そして、これから海を見る度に、鳥の囀りや、柔かい肌を思い出すことになるでしょう。
そういう意味で、ここでの体験は、明らかに僕の人生を変えたのだと思うのです。ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。

Shirahama wa Shiman Ga Izoi



神奈川県川崎市在住 高橋 正樹

☆1991. 6. 2

5月27日からカメラ研でボランティアをやっている大然です。私は屋久島に来て、初めて海亀の産卵を見る事が出来、大変感激しました。私は幼い頃から生物が好きで、子供の頃は色々な生物を飼っていましたが、ある時から自然の生物は自然のままに、そして人間もできる限自然と調和して、他の生物と共存共栄していくべきだと考える様になりました。全の人が自然の恩恵を受けて生かされているのですから...
この「いなか浜」には、いつ迄も海亀が安心して産卵に来れる様に、心から祈っています。 木下 大然

☆5/14、屋久島も、今回で3回目、そして、今日は最後の夜。風邪をひいてるのはいいことにA・Bばかりの1週間、しかし、昨日、A・Bが段になったのでC・Dに行った。まず川に足をつこんだ。翼をつけなきゃと思ってたのにさらに、岩に力の限りつまってこんだ。記録の底もペンライトも、時計も飛んでいった。倒れたまま5分、やっぱりC・Dと思った。これからも、永遠に続くC・Dの大ぼけ。これは、大牟田さんのホラと同じくらい要注意! 愛媛県 曾我 謙一

☆もう、ウミガメの調査が始まって早や一ヶ月もたちました。昨年過去最多の上陸・産卵を記録し、今年はそれ程ではないだろうとたかきつていましたら、なんと今年は今の所5月いっぱい総計では昨年を上まわってしまいました。そして、アオウミガメも5月15日に初上陸し、20日には108個の卵を産みました。彼右様のないカメラです。今年も又、手伝ってくれる人が来ています。その先陣が早水君、5月7日にここに来て、シーズン終了まで手伝ってくれるそうです。そして昨年2度も来てくれた曾我君(5月9日、ふいにやってきて15日帰りました。)また、7月末に訪れる予定。(本人弁)ウミガメ、スペシャリスト田嶋君が5月19日より7月の中旬まで、川崎君の友達の高橋君が5月30日に浜に来て、1ヶ月ぐらいの予定。そして、ユニークな存在の大然さんが5月27日に加わりおかげで私はゆくり今年はできそうです。研究会が発足して7年目、地元の人はいなくなっちゃったけど、島外からの助っ人、たのもしいかぎりです。昨年同様、浜の小屋と山の小屋がにぎわっています。 大牟田 一美

☆次の方々から寄付と差し入れがありました

吉田 津由子さん 山口 義徳さん 安田 耕一さん 宮崎 雅恵さん FRAIDAY 屋久島自然館 北海道野生生物情報センター 誠にありがとうございました

→うみがめ通信をご希望の方は、半年費2,000円を同封し事務局まで申し込んでください。(うみがめ通信4回、報告書・ウミガメ冊子付)→

うみがめ通信

No. 2
1991. 7. 10発行
屋久島ウミガメ研究会



☆6月のニュース

- ・TagNo. Y574が永田川、川口のテトラにはまり動けないのを助ける。(6月2日) 後日、その場へ上陸する経路をふさぐことを県に申し入れし、即、工事し、その後テトラにはまるウミガメはなし。
- ・TagNo. 3181、5月21日田舎浜に上陸・産卵する。そして、6月8日上郷村の定置罾に入り、6月29日再び田舎浜に上陸して産卵する。
- ・6月8日 TagNo. 3292、15時45分田舎浜に上陸し、卵93個産卵し、17時4分海へ帰る。
- ・6月19日 TagNo. 3160が田舎浜からAM3:00産卵してもどったが、AM5:00過ぎ網にかかったのを助ける。
- ・PM1:00~4:00の間、また昼間上陸し産卵して海へもどっていった。(6月20日)
- ・アオウミガメ3頭上陸し、4履分保護する。
TagNo. 3173・3336・3397、6月10日・26日・28日に産卵。
3338と3397は同夜上陸産卵した。

☆6月の上陸・産卵状況

| 上陸頭数 | 産卵頭数 | 確認産卵数 | 確認産卵頭数 | 産卵率 |
|------|------|-----------|--------|-------|
| 548 | 374 | 26171(66) | 224 | 68.2% |

しれない... 永田は過酷らしいけど旅行者の目から見ると、とても住みよい所です。まず、いちゅん、ぼあちゅんが元気がいい。まだまだ主役だもんね。それに、子供が挨拶してくれる。道を歩いていると知らないおじさんが「乗ってけ」って送ってくれた。この人の顔と私の顔を比べると顔は全然違う。時間の流れ方が違うのだから仕方ないのかもしれないけど、ウミガメにさわりまくるといってんでもない体験もしたし、天の川を見たいし、山小屋の生活もおもしろかった。きつと又来るのでその時もよろしく願います。子亀が見たいので夏に来るかもしれない。

一息を吹き返したウミガメ
8月19日は地元の後節の有馬さんの船で沖に出て、カメの生態を見て来ました。水深10m前後の海底で休んでいるカメ、歩いていくカメ水中をゆっくりと泳いでいるカメなど、色々な姿のカメに出会いました。海底を歩く様子は、陸上での歩き方と殆ど同じでした。歩く時は前足だけで水を掻いていました。近づいてもあまり警戒する様子もなく、堂々と泳いでいました。場所は産卵地の沖合200m前後、確認出来たのは7~8頭で全てアオウミガメでした。翌朝も有馬さんの船に乗って、磯帯を引き上げるのを手伝いました。磯には早朝産卵したばかりのアオウミガメが掛かって溺れていました。産卵して帰海したのは3時間、引き上げたのは8時半頃です。目を開けたまま四肢はだらりとし、呼吸も止まっていたのですが、30分経ってから息を吹き返しました。1時間程介抱してから海に放してやると、元気に泳いで行きました。こんな素晴らしい自然が一杯の屋久島。そして、それを取り巻く青く美しい地球をみんなで大切にしましょう。

大然 屋久島田舎浜より

あっという間に7月になりました。この18日は今までの私の時間のうちでびっくり穴があいたような空白の日々だった気がしています。何だかたかたんあったなと頭がぼーっとしています。ただ眠いだけかも知れない。永田は過酷らしいけど旅行者の目から見ると、とても住みよい所です。まず、いちゅん、ぼあちゅんが元気がいい。まだまだ主役だもんね。それに、子供が挨拶してくれる。道を歩いていると知らないおじさんが「乗ってけ」って送ってくれた。この人の顔と私の顔を比べると顔は全然違う。時間の流れ方が違うのだから仕方ないのかもしれないけど、ウミガメにさわりまくるといってんでもない体験もしたし、天の川を見たいし、山小屋の生活もおもしろかった。きつと又来るのでその時もよろしく願います。子亀が見たいので夏に来るかもしれない。

本庄 美弥子(本庄さんは、6月12日に来て7月1日に京都へもどりました)

☆告

8月7日~31日まで屋久島自然館(☎6-3113)でウミガメ展を開催します。

8月中旬に入った日、白谷雲水峡から入り、大棟(ウィルソク)でその大きさにため息をつき、欄干を相手に酒を飲み、千鳥足でカビくさい高塚小屋にたどりつき、平石で風に飛ばされ、宮之浦山頂でカメラがこわれ、永田岳を横目に下り、穴に落ち、雨と霧にずぶ濡れで崖の沢小屋に飛び込んで、ドロに足を取られやっとの望いで永田へと駆け落ちて来ました。屋久島は深層の島だと言われます。宮之浦岳の山頂で捨てた石も花崗岩でしたし、高塚小屋から平石に向かう途中、谷を挟んで巨大な花崗岩の一枚岩を見ることが出来ます。屋久島は深い森の岩の上に僅かに堆積した土に生かれています。その証拠に登山道などは裏土が洗い流され、すぐ岩が露出してきます。大きな岩をかかえこむように根を張った木を何本も見ました。花崗岩というのは風化しやすい岩なので、確かに露出した岩肌は、爪でひっかいてもすぐポロポロとくずれてしまいます。山を登っている途中、標高千メートル以上の所に突然砂地があったりして驚かれます。そう、浜にある砂と一緒なんです。一瞬、浜を歩いているような錯覚に陥りました。崖の沢小屋の沢の底の砂も、今目の前に広がる浜の砂もまったく同じ。屋久島特有の白い砂は花崗岩から出来、そして美しい乳白色の砂浜を作り上げました。その美しい砂浜が、毎日やせてきています。6月の下旬、大木と大風が吹り、この田舎浜も壊滅してしまいました。波打ちはええと、崖のようになってしまい、カメも上陸しにくくなっています。川の下の崖、崖の採取、様々な理由でウミガメの産卵場が壊されています。屋久島でっぺんで僕がにぎりしめた砂に、いつかカメ達が卵を産めるのだろうか。それともセメントにまぜられ、テトラポットになり、そこにカメが快まれ死んでしまうのだろうか。そんなことをふと想いながら、今日もまた夜の浜を歩いています。

高橋 正樹(5月30日川崎市から屋久島に来て、7月16日島を去る予定です)

屋久島ウミガメ研究会 ☎891-41 鹿児島県霧島郡上屋久町永田1161 事務局 大牟田 一美 ☎09974-5-2657 FAX 09974-5-2280

今日も彼女は上陸して来た。数日前から何度も上陸してきては穴堀を失敗して産卵出来ずに海へ帰って行った。この日も既に3回穴堀を失敗して海へ帰る途中のことである。疲れた巨体をひきずりながら小川の前にたどり着くとフーンと涼風を吹き、小川の中に頭を浸けた。そして、ゴック、ゴック、グビッ、グビッ、プーン、ゴック、ゴックと真水を喉を鳴らしながら美味しく飲んで、一気に海へ帰っていった。僕は、全身で冷えたビールを飲みたい衝動に駆られたが、これは田舎浜の午前中時、しかたない暑いグム茶をすするのでした。(このカメは次に上陸してきた時に穴堀を手伝い無事産卵できました。)

川崎 公夫(5月19日に来て、7月24日島を離れる予定です)

7月3日、友人の川崎公夫君をたずねてずっとあこがれていた屋久島にきました。8月いっぱいまで、大阪で日本のものがしおの最新編とせざるバートをしていた私にとって屋久島は、何もかもが自然そのもの、という思い込みがありました。大牟田さんの話を聞き、一見量かな自然そのもの、この田舎浜を持つ屋久島の直面する現実を知りました。9月からドイツに留学するのでその前に日本のいろいろな面を見ておきたいと思い、ウミガメの産卵の手伝いをさせてもらっています。このウミガメひとつとっても、もはや屋久島や日本単位では収まりきれない世界につながっていく問題なんだと感じています。ただ、今の瞬間は、リアリテのあるカメに触れられて、のびのびと生活でき(雨ばかりだが)、私自身非常にエキサイティングです。

たつみ しょういち(7月3日にきて、中旬までいる予定です)

☆今月も次の方々から さし入れとカンパがありました

川崎 幹雄、レストラン屋久島、山内礼文、宮崎雅恵、瀬川芳孝、寺田郎夫.....さし入れ
KKB、弓削利康、肥後八十生.....資金カンパ (敬称は略させていただきます)

8/12(水)
今日は亀研に来て今年5度目の調査だ。あと1日だ。
今年は1週間がSpecial 早かった。星に亀は上陸するし、「アオ」が上陸し産卵したし、星は星で泳いだり、遊んだり... 本当に楽しかった。海にゴミを捨てる人がいたので残念です。それと心に残ったのは、8/11にC地区で産卵した亀が卵を55個産んで、その内11個が奇形でした。とてもかわいそうでした。
大牟田さん、大然さん、川崎さん、高橋さん、その他のカメ研の人達これから頑張ってください。観光の方は、カメ研の人の事をいしてゴミ捨てや懐中電灯をつけたりするのはいやめください。本当にこの1週間は楽しく有意義なものでした。これから頑張ってください。来年も来ます。子ガメの孵化も見に来たいです。

1991. 8.8~6.14 小畑 貴司

8/21(金) PM11:25
はやいもので、今日の調査で終わりにしてしまいました。8月15日に嵐とともにやってくる雨の嵐を見ずに済むことになって、楽しみにしていただけに残念です。ほんとに、1週間、雨ばかりでしたけど、全然悪くもなく、色々ありすぎて、あっという間でした。8月19日に漁船をチャーターしての四ツ瀬沖の海でのウミガメ調査は、天候も強くて、貴重な経験をさせていただきました。海底のカメを発見した時の感動は忘れられません。調査の傍りに、カメの死体が漂っていたのを見て、ショックを受けましたが、原因はわからないですけど、確実に減少しつつあるのかなーと思います。自分達が来る1日前にアオウミガメがあがったそうで、今度もあがってこないかなあーと、期待していたんですけど見なかったですね。でもVTRで見れて、いろいろ話も聞かせてもらいよかったです。昨年以上にパワフルな川崎さん、いつも楽しく、自分の友人に話しかけてくれる高橋さん、今年も話をうのみにしてはでない大牟田さん、それから美弥子ちゃん。ほんとにお世話になりました。これからがんばってください。日本でウミガメの上陸が1番多いこの田舎浜で、調査に参加させてもらい、こうえいに思っています。また、機会がありましたら、ぜひ参加したいです。それでは、嵐と共に屋久島から去っていきます。

瀬川 芳一・矢野 慎一郎

8/13 はじめてこのカメの調査を手伝っていろいろ感じたこともあったけどそれよりもこの屋久島のサイババル生活をしてみたいことの方がよく頭に入っている。特にマンビキとかいう魚を料理したことかな。最後に早くこのような調査や監視などなくともいいような環境になってもっとのんびり亀たちを見たい。たぶんまた来年もこの仕事をするために屋久島に来ると思う。

1991.8/8~14 藤田 岳之

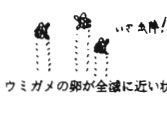
8月といえば「梅雨」。1ヶ月に35日雨が降る」と言われる程雨が多い屋久島。先月は12日続けた雨・曇雨・風雨、それにプラス「虫」最悪の環境の中、調査は続けられました。

うみがめ通信

No. 3
1991. 8. 10発行
屋久島ウミガメ研究会

☆7月のニュース

- ・17日 環境庁長官、産卵見学に訪れる
- ・19日 今年初めての仔ガメが、巣穴から出てくるのをB地区で見つける
- ・20日 アオウミガメ(5月20日産卵)の卵がふ化を始める
- ・22日 人が多く、ものもカメが多かった(上陸13頭で産卵5頭)
- ・28日 台風9号の通過で調査ができなかった
- ・28日 台風9号の影響で、A地区からC地区(500m程)の砂が流出し、ウミガメの卵が全滅に近い状態になる(初めての出来事)
- ・31日でウミガメ監視終了



屋久島を離れる日になりました。雨に降られようが、砂嵐に打たれようが、虫の騒動にあおうが、調査を苦しいかいたやだかと思ったことはないのですが、見学に来ている人たちのトラブルなどの俗世間の問題には多少悩まされました。そこで、「人々の意識が低い」「環境庁はどうなっている!」などと言いつつ事は簡単なのでしょうか、一見このようなカメの調査とは別問題のような事をクリアしていくことが重要なんだなと思いました。自然保護を叫ぶにしても人間社会の問題も自然の中に属しているという前提に立たず、それを切り離して主張するならば、それはひとりよがりであり、現実不可能な理想主義の自然保護になるのでしょうか。自然環境を考えた時に俗世間の問題を避けて通ることは許されないようです。私も自分の俗的な意見を頑固に否定せず、よくいわれるようにグローバルに考えて無理せず自分のできる、やりたい事を身のまわりでやっていきたいと思っています。最後の調査の夜、感慨深く浜に寝ていた私の股間から砂の山を作り目を覚まさせてくれ、また最後までまじまじと眺めてくれた大車田さん、本当にどうもありがとうございました。人間不信になったらあなたのせいですが、あ、すごい! てっぺい流れ星!!

☆7月の上陸・産卵状況

| 上陸頭数 | 産卵頭数 | 確認産卵数 | 確認産卵頭数 | 産卵率 |
|------|------|-----------|--------|-------|
| 388 | 214 | 10498(32) | 98 | 58.5% |

91' 7/23~7/29

1991年7月22日 たつみ しょういち (7/3~7/22)

8/7(水)から屋久杉自然館(屋久町安房 ☎09974-6-3113)でウミガメ産卵が開催されています。(8/31まで)

屋久島を離れて早いものでもう二週間が過ぎました。懐かしいことに今に社会復帰できず、夏の日差しを避けてアパートでごろごろする毎日が続いています。都会の友人たちの反響は以外に大きく(テレビに出た際もあまりすか)次第に興味が減まっていることは確かな様です。ウミガメという動物について、そしてまるで神様が造った精進のような島について。屋久島からの便りには、今年最初の仔ガメが出てきたよ、アオウミガメがまた上陸してきたよ、と。片足のぬい狐、頭につジツボがついている奴、川の水を旨そうに飲んでいた奴、テラポットに挟まれて鼻の頭を折り割っていた奴、みんなそれぞれ近い海に旅立ったことでしょうか。何年か過ぎて再びあの浜で彼女たちと出会うのだろうか。彼女たちの無事を祈

替いいハナから赤、青、仔ガメとトリブルラッキー だったのは初日で、後は浜でカメ待ちの間流れ星を見、ビールの泡に微笑む日々でした。沖繩はオリオンビールでした。「みたけ」ですね。「焼くようおれがいいんですけど」なんて言ってご免なさい。グアバ木にパッションフルーツ、うだる風間はひたすら暖り、涼風吹く頃浜に出てカメを見てた一週間。最後の晩年の昨日の台風で浜は大荒れでoff。昼、浜を歩いたら地形がガラッとかわってました。自然のキョウイ。カメ達の足跡は失くなり、けずれた砂地むき出しになった卵。フ化を早められてしまった仔ガメ。卵をくわえる鳥。卵を移し寝えたり、仔ガメを海に放しながら5000匹の1の確率でどこか泳いでいると願わずにいられた。ゴミを持った時も思ったんだけど、浜が狭いのに産卵場所を踏まずに浜に入るって知らない人にはわからない。自分自身も「ひょっとしたらここは?」卵を移すときも「大丈夫かな」人が入るのを制限した方が、しなきゃいけないって思えます。悲しい事ですけど。共存は不可。

田舎浜に平穏あれ 91' 7. 30 今井 ゆかり

り、再び彼女たちを迎え入れる場所を守っておかなければ。願わくば、ウミガメのこと、屋久島ウミガメ研究会のことを理解する人達の増えゆくことを。それでは、また来年元氣でお会いしましょう! (もっとも僕は十月に再上陸する予定ですけど・・・へっ! 誤ましいだろう!)



屋久島ウミガメ研究会 ☎891-41 産卵島鳥類毛節上屋久町水田1181 事務局 大車田 一美 ☎09974-5-2857 FAX 09974-5-2280

8/5
やっぱり海がきれいだった
空が青かった
山がいっぱいだった
人がやさしかった
大車田さんがろをついてた
今日帰らなかならないけど
またひとついい思い出ができた
屋久島は まほろば だー
記憶の背後

7月30日火曜日 午後8時30分頃山小屋にて1つの事件が起こりました。題して「アオウミガメの大脱走」でも宜いでしょうか。山小屋に隣接している倉庫から孵化したアオウミガメが、なんと約80匹もいっせいに海に向かって歩き出したのです。といっても私自身はその現場にはいないので、このカメ脱走(ジュエンの脱走の子供達はみな 男 だった)の命を救ったのは、台風のためテントを張ったカメの小屋付近から山小屋に避難してきた4人グループの中の忠岡さんと太田さんでした。私が小屋に帰った時は、カメ脱走はすでにバケツの中にほうり込まれていたのですが、カメ脱走を救った2人の興奮はまだ、さめ終わらず、その時の様子を簡単に想像できるくらい、くわしく教えてくれました。2人が気が付くのが早かったからよかったものの、もし、そのままカメ脱走がこの山の中から海を目指して歩いて行ったらいいようにならなかつたか、この2人の活躍のおかげで80匹の子ガメが簡単にその日の晩、海へ帰ることができたのですから、本当に腹の下が寒いというよりは、当の私はその時を待っていたかたという、石井温泉で気持ちよく風呂に入っていました。あ、これでまた大バケと何かかいてしまうのかと思うとつらいのですが、この話はやっぱり皆様にお知らせせねばと思い、ペンをとらせていただきました。といっても、このウミガメ脱走第3号をこれだけおかせてしまったのは、私が準備をずつと雪かかなかったため、渡辺さんの責任ではないということ、ここで言うておきます。この第3号を今か今かと心待ちにしていた多くの方々、本当にすみませんでした。でも、まだ、だいぶ空白が用意されているようで、こうして意味のないことを書きながら、空白をつぶしていこうと努力しているのですが、まだいぶんあるみたいで、... どうしよう。

でも、それにしても、はっほうスチロールの卵箱の蓋を剥けてしまうなんて子ガメでも何匹も産まると聞いて、それほど、海へ帰りたいというところなことがありました。7月27日浜で子ガメの孵化を見て、明け方だったから海に入る準備までみようと思って、ついて行ってみると、突然子ガメが帰ってきたようななかへ帰ってしまうではないですか。上へ行くことすればほど、アリ地獄のようにどこへ埋まっていってしまっ、本当に下に何かあるんじゃないかと思って、必死に掘り返してみたところ、そこは、本当に産できた穴の穴でした。でも、30cmくらい深さがある、出口が直径5cmくらいしかないというのでは、子ガメは一度落ちてしまつて上がつてこれないのではないかとと思うのですが、やっぱり、新人はまだまだだなぁという声が届くから聞かえてくるような気がしますが、... でも、これで何と空白が終わりました。楽しみにしていたこの第3号を運ばせた張本人の名はここでばらせておかせ下さい。わかる人にはわかってしまうかもしれませんが、第4号にて明かしますので、... というわけで、第4号も運ばれたかなんて思わないで下さいね。次回、こう御期待! と今は叫んでおきます。

3ヶ月という長い調査もやっと終わりました。今年も日本各地から新・旧研究会のメンバー達が集まって調査を行いました。夜9時から明け方までA~D地区を走り回り、時にはウミガメの横で視入ってしまったりの日々でありました。しかし、雨の日も風の日もウミガメ達は産卵のために上陸してきます。そんな時は少しきつけれど、雨の日の風の下で流れ星を数えながらウミガメの卵を数える時、何とも言えないすがすがしい気分であった。今年は7月19日初めてのふ化が見られその様子をじっくりと観察することができた。それ以後毎夜産卵よくふ化が見られたが去る7月28日の台風9号によって80%以上の卵が被害を受けた。そう強い風ではなかったが、浜の南西側に雨の嵐を受け砂が北西側へ大移動したのであった。この事は田舎浜ができて初めての事であろう。そのため、砂が卵の埋まっている草地との境付近から流出した。今年ははしかないとしても、来年は砂がもどってくるだろうか。心配なのはそれらの方である。アオウミガメが良く上陸してきた。といってもわずか4頭のウミガメに頼りつけただけである。卵も8産分保護し、200匹程度飼育してもらって1年たつたらかえしてもらい田舎浜から放流する

予定である。
ぼつぼつデーターをまとめてみようかと思っている。毎年の事であるがいつも報告書を出したかと思うとすぐ調査にかからねばならない。今年はそうならぬようにしたいと思う。
大車田
☆今月も次の方々から差し入れ・カンパ等いただきました
神宮司幸恵さん、片山さん、堀田さん、宮山幸彦さん、宮崎雅恵さん、天然村女性の方(匿名希望)
誠にありがとうございました

